



Reitaku Overseas Development Association

RODA ニューズレター

財団法人麗澤海外開発協会 会報

平成23年
(2011年)
6月1日
第14号
第9巻 第1号
年2回発行

主な記事

- 巻頭 Laosの図書館建設が完成
- 報告 Laos・スタディツアー
平成22年度事業報告
- その他 寄付金等の報告

発行所：財団法人麗澤海外開発協会
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953
<http://www.reitaku.or.jp>
発行人・甲良昭彦 / 編集人・横山守男

東日本大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます

ラオス サワンナケート県 タート・インハン小学校

教育支援事業

図書館完成！



約200冊以上の本が並びました！

That Inghang village

primary school

タート・インハン小学校

District Kaysone Phomvihane, Province

Savannakhet, Lao P.D.R.

生徒数：小学生 450人

中等教育 312人

幼稚園 48人

計 810人

タート・インハン村に初の図書館ができました

平成23年2月、(財)麗澤海外開発協会(RODA:会長・廣池幹堂)が支援事業として進めていたタート・インハン小学校(ラオス・サワンナケート県)の図書館が竣工しました。この図書館は、平成20年に竣工したタート・インハン小学校の校舎建設に続いて当協会が支援事業として建設したものです。2月17日に同校で開催された図書館の贈呈式には当協会の竹原茂副会長をはじめ、事務局員2名、ラオス・スタディツアー参加者4名、麗澤大学外国語学部国際交流・国際協力専攻の学生11名が参加しました。

式典には、建設に協力いただいたIV-JAPANの富永幸子代表とスタッフのほか、ラオス官公庁関係者、教育関係者、住民、生徒等、200名以上のたくさんの方に参列いただき、村の教育の発展に対する大きな期待と熱意が感じられた式典となりました。図書館には200冊ほどの書籍が納められ、当協会からは日本の童話等の書籍も贈呈しました。ラオス教育局からは感謝状を頂き、麗澤大学IEC(外国語学部国際交流・国際協力専攻)の学生グループRISOVPからは手作りのプレートを贈呈しました。

この図書館は、開館の間は生徒以外に村人も利用でき、図書館司書の研修を受けた小学校の教諭10名が交代で管理しています。今後はより多くの人々に活用していただき、さらにサワンナケート県と当協会がよりいっそう交流できることを願っています。皆様からのご支援のおかげで図書館が建設できたことに深く感謝申し上げますとともに、これからもご支援・ご協力をお願い申し上げます。

Laos

教育支援活動

ラオス タート・インハン小学校

図書館贈呈式に参列しました



タート・インハン小学校の図書館贈呈式には、生徒たちが勢ぞろいで出迎え、校長と教員の皆さん、教育局役員の方々、保護者の方々が一堂に会して行われました。最初に建設会社の報告があり、I V-JAPANの富永幸子代表より祝辞をいただきました。ラオス語と日本語の両方でお話しいただき、麗澤海外開発協会(RODA)の廣池幹堂会長の挨拶文を竹原茂副会長が代読しました。麗澤大学生からは、手作りの記念品贈呈と祝辞があり、I V-JAPANより感謝状が贈られました。その後、鍵の伝達と図書館見学が行われ、記念植樹でジャックフルーツの苗を植え、ラオスの伝統儀式パーシーが開かれました。

昼食会では、中学校の児童による歌の披露と音楽演奏などがあり、ラオス料理をインハン村の皆さんが用意してくださり、今までに食べたことのない味に日本からの参加者も感激した様子。中でも、パーシーの儀式のために村の方たちが鳥を数匹しめてくださり、それらが食卓に並んだときに参加者は驚いていましたが、皆ありがたく頂きました。

今後の図書館継続のための課題や、教員・生徒の利用率などについてI V-JAPANのスタッフとともに考え、タート・インハン小学校と当協会や麗澤大学生との交流が盛んになることを願います。そして、当協会としてタート・インハン村の人々に読書の大切さや学校に通うことの重要さをいかに伝えていけるだろうかと、あらためて考えさせられました。

報告：山中 香(麗澤海外開発協会<RODA>事務局スタッフ)



ドネーション(寄贈)プレート



図書館内を見学



ラオス教育局より感謝状の贈呈



小学校校長や来賓の方々との記念写真



図書館の鍵の伝達



麗澤大学生へ感謝状の贈呈

活動紹介

麗澤大学外国語学部国際交流・国際協力専攻 ボランティアグループRISOVP

「RISOVP」という学生団体を組織してから早2年が経った。2011年2月の贈呈式は人生において初め

で感じる感覚だった。喜びや嬉しさ、そのような感情かと思っていたが、それらであるかのようで、それらとも言い切れない感覚だった。

私はこの場をお借りして多くの尊敬する人に感謝をしたい。RISOVPにヴィジョンを与えてくださった竹原茂教授やRODA事務局の方。最後の最後まで心配してくださったIECの教授方。私たちの活動に賛同してくださった多くの方々。そして何よりRISOVPのヴィジョンに手を挙げてくれた同胞。皆誰一人欠けることなく私の生涯において自慢できる信友だろう。心の底からの感謝を申し上げたい。ありがとう。多くの後輩には、我々のような先輩がかつて存在したことを励みに、または踏み台にして麗澤大学の国際協力を開拓してほしい。微力な学生の存在が熱意によって強力な何かを動かすことができさえすれば、必ず不可能も可能にできよう。



麗澤大学IEC専攻4年 関口和宏



(財)麗澤海外開発協会主催

ラオス・スタディツアー開催報告

平成23年2月12日から20日にかけて、8回目のスタディツアーを行いました。今回のスタディツアーでは、ラオスのタート・インハン村の小学校における図書館贈呈式に参列することを主な目的としました。図書館贈呈式以外には、ヴィエンチャン市内の観光地を見学し、今までに食べたことのないラオス料理を味わい、市場などにも訪れ、現地の生活を体感しました。また、ヴィエンチャン職業訓練専門学校やサワンナケート大学にも訪問し、学生との交流会を開きました。どの訪問先の方々にも温かく歓迎していただき忘れられない時を過ごしました。



全体を通してもっとも強く感じたことは、「幸せの形は実に様々」ということでした。買い物に行くについつい「これは日本円だと…」と考えてしまいます。現地でお世話になったドライバーさんが遅刻をすると「日本だとこれでは仕事はやっていけない」と考えてしまいます。市場の様子を見ても「こんな不衛生な肉売り場、日本ではありえない」と考えてしまいます。しかし、その日本と比較すること自体が無意味に思えました。「ラオスにはラオスの生活があり、幸せがある。もちろん日本は日本の生活がある。ただそれだけ」。そんな気持ちになりました。ラオスの空気を肌で感じるという貴重な経験をさせていただきました。

(麗澤瑞浪中学・高等学校教員 松瀬 光)

スタディツアーを通して、ラオスという国にすっかり魅せられてしまった。日本人が失いつつある信仰を基盤とした精神的な伝統が、今なお残っていることにも驚いた。豊かな自然、野菜たっぷり栄養満点の料理の数々、優れたホスピタリティと敬虔な信仰心、素敵な笑顔を持つラオスの人々—そのすべてに魅せられてしまった。アジアの一員でありながら、同じアジアの国々について、無関心とは言わないまでも、極めて関心が薄かった。スタディツアーに参加しなければ、そのことに気づくこともなかった。アジアの一員であることへの自覚、アジアの国々をより深く見つめる目を持たせてくれました。

(木村 浩司)

ラオスの料理



パーシーの儀式で使用した鳥の丸焼き。ラオスの地鶏は本当においしい!

ラオスのラーメン「フー」。野菜たっぷりで健康的。さっぱりした味わいです。



スタディツアーでの滞在中は、ラオスの人々が普段食べているような食事をしました。屋台でラーメン、村の食堂で定食を、市場で見かけた食材をリクエストしてゲストハウスで作っていただくこともありました。そうすることで、ラオスの人々の暮らしが体感でき、親近感もいっそう湧いてきました。



ハーブの盛り合わせ。ラーメンを頼むと食べ放題! 栄養たっぷり! 胃もたれしません。



アリのたまごのサラダ。やみつきになる味付けです。おやつにもぴったり!



平成22年8月20日～8月31日

第21回 麗澤大学 ラオス・スタディツアー開催

「麗大生だからできるオリジナルの日々」を体験

——— 学生たちの感想文をまとめました ———

この旅ではラオスの学生や子供たちの元気な笑顔や優しいところ、まじめな姿勢を直接見ることができ、本当に温かさを感じることができたスタディツアーになりました。さまざまな勉強ができたので、これからの将来、やりたいことへの道しるべや勉強への意気込みにもなりました。また、一緒に学習できた仲間たちにも感謝の気持ちでいっぱいです。仲間がいたから互いに協力することができたり、積極的に質問をぶつけることができたと思います。最初は安易な理由やきっかけで興味をもったことでしたが、第一歩を踏むことができたのは、大きな成長にもつながると思いますし、これからの生活や価値観に大きな変化をもたらしてくれるものになったと思います。これから行こうと思っている人もそうじゃない人も、将来国際人を目指しているわけじゃなくても、麗澤ツアーの方々や先生方という素晴らしい機会と条件が備わっているので、ぜひ麗澤生だからできるオリジナルの体験をして欲しいと思います。竹原先生と一緒に最初で最後のスタディツアーができたことを誇りに思います。ありがとうございました。

(外国語学部 I E C 専攻 1年 八巻 由季)

今回のツアーでは、ボランティアの活動が多く、毎日が新しい発見の日々だった。学生との交流では言葉の通じない歯がゆさを感じ、悔しい思いもした。けれども言葉が通じなくても、お互い笑顔でニコニコしているだけで気持ちが通い合っている気がして嬉しかった。盆踊りやソーラン節を踊ってラオスの学生が喜んでくれていた姿は、今でも忘れられない。お互いの文化を共有し合い、私はあつという間にラオスの伝統的な踊りや音楽のとりこになっていた。向こうの学生も私と同じように少しでも日本の文化に興味を持ってくれたら嬉しいと思う。日本にいて勉強するだけじゃもったいない。外に出て自分の目で見るのが、何より自分の成長に繋がるのではないかと思う。このツアーで経験したことをこの先の学習に生かして、自分にできることを少しずつ見つけていきたい。

(外国語学部 I E C 専攻 1年 荒井 美香)

盲学校の子供たちは、毎朝一人で支度をできるようにがんばっていたり、英語を一生懸命勉強していたり、少しでも自立できるようにがんばっていた。盲学校の方の話をしているうちに自然と涙が出てきた。あの時の感情は、あの場にいないければ分からないような感情だった。とても言葉では言い表せられない思いだった。しかし、このことを多くの人に知ってもらわなければならない。ラオスに行った私たちだけがこのことを、行っていない方へ伝えることができるので、私たちはたくさんの人に伝えなければならないのではないかな。まずは自分の身近な人から徐々に伝えていきたい。

このツアーの体験をして得たものはとても大きいものだ。日本で話を聞くのと自分が実際にいくのでは訳がちがう。このツアーで感じたこと、考えたことを活かして自分の視野を広げ、自分にできることを考えたい。そしてもっと世界のことを勉強したい。心からこのツアーに参加できて良かったと感じている。最後に竹原先生、成瀬先生に感謝の気持ちを伝えたい。ありがとうございました。

(外国語学部 I E C 専攻 1年 島垣 絵美)



カンボジア

スタディツアー

出会いと気づきの旅路



平成22年9月5日から8日間、カンボジア・スタディツアーを行いました。麗澤海外開発協会の学校建設事業によって建設された小学校を訪問し、子供たちと交流会を行い、日本文化を紹介、またアンコールワットなど世界遺産を巡る歴史と伝統を学ぶ旅となりました。小学校の訪問では、日本の遊びを子供たちに教え、日本の文化の素晴らしさや伝える喜びを実感し、新しい自分と現地の人々が交流する幸せを感じました。カンボジアでの経験が、今後参加者の方の心の糧となったようです。

ツアースケジュール

- ・9/5(日): 事前研修会(研修寮にて)
- ・9/6(月): 成田発、ホーチミン経由、プノンペン着
- ・9/7(火): ツールスレン博物館、キリングフィールド、セントラルマーケット、独立記念塔、王宮、銀寺、メコン川トンレサップ川の合流点
- ・9/8(水): スラム視察(SVA事業)、SVAカンボジア事務所訪問、陸路でコンポントムへ移動(約3時間30分)
- ・9/9(木): チョロマス小学校視察と子供たちとの文化交流、民家見学、トラムクラ小学校視察と子供たちとの文化交流、陸路でシェムリアップへ移動(約3時間)
- ・9/10(金): アンコール・トム、南大門、バイヨン寺院、タプローム遺跡、アンコール・ワット等見学、像乗り体験、伝統舞踊アプサラダンス鑑賞
- ・9/11(土): トンレサップ湖水上生活の見学、伝統工芸場見学
シェムリアップ発、ホーチミン経由
- ・9/12(日): 成田着、解散



象乗り体験



小学校の子供たちと一緒に



遠くにアンコールワットをのぞむ

参加者の感想



私は生まれて初めてスラムの生活を目の当たりにしました。木材を組み合わせただけの質素な家、ゴミ山から売れるものを探して生活の糧としている人々。高校のときの教科書や資料などで大まかには知っていたものの、実際の現場を見るととても衝撃的でした。また学校訪問をした際、子どもたちは一冊の本が届いた途端、大喜びして皆で読み、共用していました。その姿を見て「物資が豊かとは言えなくても心は本当に素直で豊かだな」と私は感じました。日本では大きな図書館があり、学校の教科書も1人に必ず1冊が与えられ、読み書きの教育をしてもらえるということが当たり前の状況です。ところがカンボジアではそうではなく、1冊の本を与えられることが本当にありがたいと感じ、そのことに対して喜びと感謝の気持ちが溢れていました。私はこのような両国の考え方に対する違いから、「今の自分の生活を当たり前として捉えるのではなく、すべてありがたいこととして感謝して受け止めなければいけない」と心から反省しました。そして物質的な豊かさだけを求めるのではなく、精神的な豊かさが人間として生きていく上で本当に価値のあることなのではないかと考えました。

今回のスタディツアーに参加させていただいたことで、私の人生観が変わりました。また客観的に日本を見ることができ恵まれた環境で生活していることに心から感謝の気持ちを感じました。今回体験したことを活かして、日々の生活の中でも発展途上国と呼ばれる方々の幸せを祈ることからはじめ、自分の身近な方々だけでなく、もっと広い世界に微力ながらもこの現状を発信していけたらと思います。

岡田 理沙

ネパール 医療技術支援

現地鍼灸師の育成と巡回治療を進める

木下 廣太郎（麗澤海外開発協会常務理事）

ネパールは3年前に立憲君主制から連邦民主共和制に政権が変わり、共産党が実権を掌握しました。しかし、いまだに新憲法が制定されず、政治の混乱は依然として続いています。一人あたりのGDP(国内総生産)は500ドル以下で、国民の生活は苦しさ増すばかりとなり、日本からのODA(政府開発援助)の予算も削減され、プロジェクトは減少しています。そんな状況にあって主要な道路建設やダム工事は進められています。

当協会では、無医村の住民や経済的に恵まれない人たちの健康回復を目的として、5本の指と簡単な器具で病気を治療ができる日本の鍼灸治療を広めるため、日本から鍼灸師を派遣してカトマンズ市にネパール赤十字の協力を得て、「東洋医学専門学校」(OTTC)の設置と運営に協力しています。これまでに数十名の現地鍼灸師を育成し、巡回治療(ヘルスキャンプ)を6年間にわたって実施して延べ10万名の患者の治療を行いました。今年からはJICA(国際協力機構)のシニアボランティアとして日本から鍼灸師が派遣され、ネパール人鍼灸師の指導や患者の治療に従事しています。現在、ネパールで開業している鍼灸・指圧治療院のほとんどは「東洋医学専門学校」の卒業生によって構成されています。

同校は開校して20年近くが経過し、所期の目的は達成してきていますが、最近では経営状態が厳しくなり、授業料や治療費のみで教員の給与や諸経費が十分に賄えなくなり、建物も老朽化して修繕費等の費用も捻出できない状況になっています。このような問題を解決し、今後も継続して運営できる態勢を構築していくために、ネパール赤十字と真剣な協議を重ね、より質の高い鍼灸師を育成するための方策を検討していく必要があると考えています。



ヘルスキャンプ開催決定 無料巡回医療ボランティア

今年も、ネパールにてヘルスキャンプ(無料巡回医療支援)を行うこととなりました。ヘルスキャンプでは、ネパール赤十字支部と協力し、病院のない村や街で無料診療を行います。今年も多くの方のご応募により、日本とネパールの鍼灸師やボランティアを決定し、開催が決まりました。

日程：8月19日(金)～29日(月) ヘルスキャンプ期間：5日間(21日～25日)

内容：無医村に出向いて東洋療法(鍼灸・指圧)による巡回治療(ヘルスキャンプ)に参加し、治療活動の補助ボランティアを行います。

対象：・鍼灸・指圧・理学療法などの資格保有者、鍼灸学校学生、その他の方はお問い合わせください。

・英語またはネパール語ができること、健康で順応性、協調性がある方。<http://www.yomoginokai.jp/>



—平成22年度事業報告—

1. 技術者の派遣と支援事業について

<ネパール>

- (1) ネパールにおいて東洋療法(鍼灸・指圧)による住民の健康回復に寄与するために、日本人専門家を派遣して治療技術者の育成を行い、また、治療に使用する「もくさ」の製造技術者を育成し自立支援を実施した。

<タイ>

- (2) 北部チェンライ県で、生活が困窮している少数民族の子供たち(29名)への生活・教育支援施設の運営事業を実施している、メーコック財団に対して支援と助成を実施した

<ラオス>

- (3) ラオス・サワンナケート県タート・インハン村小学校の図書館建設の支援を行った。

2. スタディツアーについて

- (1) カンボジア・スタディツアーを実施した。

- ① 日程 平成22年9月5日(日)～9月12日(月)(8日間)
- ② 参加者 5名
- ③ 訪問先 カンボジア(シェムリアップ、プノンベンほか)

- (2) ラオス・スタディツアーを実施した。

- ① 日程 平成23年2月12日(日)～2月20日(月)(9日間)
- ② 参加者 5名
- ③ 訪問先 ラオス(ヴィエンチャン、サワンナケートほか)

- (3) 「よもぎの会」のスタディツアー(ヘルスキャンプ)の開催を支援した。

- ① 日程 平成22年8月14日(日)～23日(月)
- ② 行先 ネパール(カトマンズ、ビルガンジー)ネパール赤十字ビルガンジー支部
- ③ 参加者 12名
- ④ 治療患者数 3,656名

- (4) ラオスにおいての麗澤大学生によるスタディツアーが実施され、それをサポートをした。

- ① 日程 平成22年8月20日(金)～8月31日(火)(12日間)
- ② 参加者 18名
- ③ 訪問先 ベトナム(ハノイ)・ラオス(ヴィエンチャン)

- (5) 当協会がサポートして実施する予定であった麗澤高校タイ・スタディツアーは、タイ国内の政情不安により中止された。



3. 海外視察について

- (1) ネパールにおける支援事業の現状視察および今後の方針についての打ち合わせのため、渡航した。

- ① 日程 平成22年12月23日(木)～31日(金)

4. 賛助会員募集状況について

- (1) 賛助会員、寄付金、竹原基金の募集を行った。

- ① 賛助会員 法人(団体): 12団体 個人: 122件
- ② 準会員 0件
- ③ 寄付金 162件
- ④ 竹原基金 67件

平成22年度決算書

5. 広報活動について

- (1) ニュースレター第13号(11月)を発行した。

- (2) インターネットホームページを更新した。

(URL: <http://www.reitaku.or.jp/>)

6. 出展活動について

- (1) 「伝統の日・感謝の集い」

平成22年6月5日(土)・6月6日(日)

- (2) 「モラロジー生涯学習フェスタ」

平成22年10月3日(日)

7. 会議開催について

- (1) 本法人の運営にあたって、次のとおり役員会を開催した。

- ① 第94回理事会・第51回評議員会
- ② 第95回理事会(臨時)
- ③ 第96回理事会・第52回評議員会
- ④ 第97回理事会・第53回評議員会

- (2) 事務局打合せを行った。

収入の部		支出の部	
I 事業活動収入		I 事業活動支出	
① 基本財産利息収入	100,438	① 事業費	
② 賛助会費収入	2,280,000	海外調査費	205,239
③ 寄付金収入	2,431,266	海外旅費	2,720,984
④ 竹原基金収入	1,438,501	広報活動費	105,535
⑤ 受取利息収入	2,513,306	図書資料費	18,795
⑥ 雑収入	0	雑費	108,382
事業活動収入合計	8,763,511	緊急援助費	0
II 投資活動収入		事業費合計	3,158,935
① 学校建設積立金取崩収	1,300,000	② 助成支出	3,444,572
② 有価証券売却収入	500,000	③ 管理費	
投資活動収入合計	1,800,000	給料・手当	0
当期収入合計	10,563,511	雑給	272,000
前期繰越収支差額	890,716	会議費	378,286
収入合計	11,454,227	旅費交通費	145,880
		通信費	99,433
		消耗品費	38,207
		印刷費	55,545
		報酬委託手数料	40,410
		賃借費	324,000
		慶弔費	160,500
		雑費	45,289
		管理費合計	1,559,550
		II 投資活動支出	
		① 助成事業積立金繰入支出	2,400,000
		当期支出合計	10,563,057
		次期繰越収支差額	891,170
		支出合計	11,454,227



たくさんのご支援、ありがとうございます

(平成22年9月13日～平成23年5月10日)

会費

廣池英行、甲良昭彦、望月雄二、内田誠一郎、青木丈幸、木下廣太郎、関哲夫、嶋田順子、山口明、大橋政夫、野田ミート(株)、宮島達郎、(株)ピアかざりや、新井秀啓、内田八代、長谷和治、竹原茂、大井武、土谷和光、大河原良雄、荒木郁雄、林正勝、白木和彦、(有)白木園芸、白木ふさ子、丸山駿一、中村修一、杉浦廣道、平川恵一、山本祥子、柏谷康博、大谷誠之、宮脇常夫、望月靖子、山本幾雄、横山印刷(株)、合資 川貞商店、今井收、館林正孝、(株)ダイキョープラザ、所一彌、石渡英雄、高松 洸、大村金三、福田薫、長谷篤治、山田雅雄、佐藤薬品工業(株)、發坂卓雄、山本浩、大垣モラロジー事務所、藤村薫、野田好秋、望月一雄、望月敏雄、望月淑子、市野忠志、俣野幸昭、桑島義智、小山松男、小嶋義佑、前田三作、和田悦治、東海林新彦、井上源一、増田一江、水田恵一郎、井上源次、小林雅純、中川千恵子、永治達彦、島田京子、上田通泰、福井博康、桑島朋子、久慈芳子、平塚靖永、須見好和、俣野貴昭、森定昌代、滝沢与吉、有限会社 弘明堂、上田敏子、木津孝道、河村満、前田晃伸、木村浩司、山中香、松瀬光、三輪早苗、田島ゆう子、水野アズミン、中川和彦、稲津龍彦、松山宏高、江川菜々子、高須賀信夫、熊木亜夫、山川義人

竹原基金

廣池英行、甲良昭彦、望月雄二、木下廣太郎、関哲夫、山口明、大橋政夫、内田八代、長谷和治、竹原茂、大井武、土谷和光、白木和彦、中村修一、平川恵一、山本祥子、大山寿々枝、柏谷康博、宮脇常夫、山本幾雄、杉一郎、所一彌、長谷篤治、山田雅雄、發坂卓雄、山本浩、野田好秋、桑島義智、小嶋義佑、和田悦治、長谷川和子、東海林新彦、上田通泰、福井博康、桑島朋子、白木貞一郎、加藤信次、御代川克之、甲良ふみ子、篠原正隆、大山圭子、板橋芳夫、平英幸、平百絵、愛知県経済同友会、IEC RISOPV

一般寄付金

野中均、甲良昭彦、望月雄二、木下廣太郎、関哲夫、山口明、大橋政夫、内田八代、長谷和治、渡辺康博、丸山駿一、中村修一、坂井モラロジー事務所、大山寿々枝、宮脇常夫、山本幾雄、横山印刷(株)、杉一郎、所一彌、高松 洸、大村金三、長谷篤治、山田雅雄、發坂卓雄、北岡絵美、野田好秋、俣野幸昭、桑島義智、前田三作、和田悦治、長谷川和子、東海林新彦、井上源一、増田一江、伊東俊太郎、上田通泰、加藤義彦、福井博康、井上照悟、安達一之、石田直、上中凱雄、勝矢啓司、加藤葉子、内藤元彦、笠田環嗣、橘高重久、玉井哲、御代川克之、佐藤孝子、三上ハツミ、篠原正隆、小金井 暁子、森与喜男、杉山 直、早乙女静子、増田つかさ、大山圭子、中野芳典、板橋芳夫、飯島孝之、飯島孝夫、木村多加志、木野千代子、鈴木かね子、大阪柏原モラロジー事務所

準会員募集中

麗澤海外開発協会では、1口2,000円からの準会員を募集中です。詳しくはHPをご覧ください。

種類	年額
会費	個人 1口1万円(1口以上) 法人 1口1万円(3口以上)
準会費	1口2,000円
竹原基金	任意の寄付金を募ります
一般寄付金 募金	任意の寄付金を募ります

郵便振替：口座番号 00120-6-499164
名義(財)麗澤海外開発協会
※通信欄にご寄付の種類をご記入ください。
銀行口座：三菱東京UFJ銀行松戸西口支店 普通 4057567
名義(財)麗澤海外開発協会

(財)麗澤海外開発協会 事務局

〒277-0065

千葉県柏市光ヶ丘2-1-1

TEL: 04-7173-3165

FAX: 04-7173-8953

E-Mail: kaikyo@ga.reitaku-u.ac.jp

HP: <http://www.reitaku.or.jp/>



会費、寄付金をお寄せいただいた方のお名前は、会報に掲載させていただきます。
掲載不要の方は振込用紙の通信欄にその旨をご記入いただくか、事務局までお知らせください。
ご連絡のない場合は、掲載にご同意いただいたものとさせていただきますので、ご了承ください。